

令和元年度奥州市病院事業報告書

1 概況

(1) 統括事項

ア 病院事業全体としての状況

令和元年度の病院事業は、急性期医療から慢性期医療、在宅医療を提供し、各地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてまいりました。

総合水沢病院においては、従来の予防医療から専門的治療までを行う医療機関としての役割に加え、地域包括ケア病床を設置するとともに、感染症病棟を有する施設として新型コロナウイルス感染症への対応に全力を尽くしました。

また、まごころ病院においては、入院患者の在宅復帰に向けたきめ細かな医療・支援を提供する地域包括ケア病床を9床から18床に増設し、医療の質を高めながら収益の改善を図りました。

医師については、年度末では昨年と同数となったものの、総合水沢病院で循環器内科、整形外科及び麻酔科で4人が3月31日をもって退職したため、医師不足がより深刻な状況となっておりますので、医師奨学生を確保するなど今まで以上に医師の招へいに力を注ぎ、経営の改善・安定化を図ります。

今後、奥州市地域医療介護計画において示される地域医療のあり方に基づき、市民が安心して生活できるよう、医療局として適切な体制を整備してまいります。

経営状況については、入院患者数は41,169人（前年比12,026人減）、外来患者数（訪問看護を除く。）は134,958人（前年比15,038人減）となっており、一日当たりの平均患者数は入院で112.5人（前年度145.7人）、外来で562.3人（前年度614.7人）となりました。一般病床利用率は53.0%で、前年度の68.7%から15.7ポイントの減となっています。

医療局としての収益的収入及び支出（税抜）については、医業収益が3,011,704,760円、医業外収益が1,295,303,850円、訪問看護事業収益が60,663,670円、訪問看護事業外収益が40,249円、このほか特別利益が1,117,140円で、病院事業収益総計は4,368,829,669円となりました。

支出については、医業費用が4,545,215,738円、医業外費用については166,041,276円、訪問看護事業費用が90,146,731円、このほか特別損失が3,970,130円で、病院事業費用総額は4,805,373,875円となりました。

この結果、医業収支で1,533,510,978円の損失、経常収支で433,691,216円の損失となり、特別損益を含めた病院事業収支における純損益は436,544,206円の損失となりました。

また、資本的収入及び支出（税込）については、収入は146,182,000円、支出は221,385,879円となり、収入が支出に対して不足する額は過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

イ 医療機関ごとの状況

(ア) 総合水沢病院

医師数は前年度と比較し、1人増の合計14人となっています。入院患者数は26,793人で前年度と比較して10,155人(27.5%)の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は59,826人で前年度と比較して11,944人(16.6%)の減となりました。訪問看護は、利用者数が4,527人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が1,914,319,382円、医業外収益が685,613,808円、訪問看護事業収益が39,642,331円、このほか特別利益が718,292円で、収益総額は2,640,293,813円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が2,832,830,823円、医業外費用が93,145,978円、訪問看護事業費用が64,393,341円、このほか特別損失が3,169,957円で、支出総額は2,993,540,099円となりました。

この結果、医業収支では918,511,441円の損失、経常収支では350,794,621円の損失となり、特別損益を含めた純損益では353,246,286円の純損失となりました。

(イ) まごころ病院

医師数は前年度と比較し、外科医の退職により1人減の合計8人となっています。入院患者数は12,479人で前年度と比較して1,615人(11.5%)の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は49,695人で前年度と比較して1,795人(3.5%)の減となりました。訪問看護は、利用者数が1,416人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が798,139,479円、医業外収益が218,263,615円、訪問看護事業収益が9,405,888円、訪問看護事業外収益が10,504円、このほか特別利益が269,946円で、収益総額は1,026,089,432円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が1,044,470,662円、医業外費用が39,865,206円、訪問看護事業費用が11,840,805円、このほか特別損失が303,281円で、支出総額は1,096,479,954円となりました。

この結果、医業収支では246,331,183円の損失、経常収支では70,357,187円の損失となり、特別損益を含めた純損益では70,390,522円の純損失となりました。

(ウ) 前沢診療所

平成28年5月から外来を再開して4年目を迎え、外来患者数(訪問看護を除く。)は7,399人で前年度と比較して672人(10.0%)の増となりました。なお、入院については引き続き休止しています。訪問看護は、利用者数が1,109人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が63,979,556円、医業外収益が148,757,810円、訪問看護事業収益が11,615,451円、訪問看護事業外収益が29,745円、このほか特別利益が7,530円で、収益総額は224,390,092円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 186,329,914 円、医業外費用が 16,550,678 円、訪問看護事業費用が 13,912,585 円、このほか特別損失が 152,826 円で、支出総額は 216,946,003 円となりました。

この結果、医業収支では 122,350,358 円の損失、経常収支では 7,589,385 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 7,444,089 円の純利益となりました。

（エ）衣川診療所

医師数は前年度と変わらず 1 人となっています。入院患者数は 1,897 人で前年度と比較して 256 人（11.9%）の減となり、外来患者数は 12,041 人で前年度と比較して 1,189 人（9.0%）の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 179,176,296 円、医業外収益が 149,667,388 円で、収益総額は 328,843,684 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 336,109,850 円、医業外費用が 12,518,412 円、このほか特別損失が 293,763 円で、支出総額は 348,922,025 円となりました。

この結果、医業収支では 156,933,554 円の損失、経常収支では 19,784,578 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 20,078,341 円の純損失となりました。

（オ）衣川歯科診療所

医師数は前年度と変わらず 1 人となっています。外来患者数は 5,997 人で前年度と比較して 782 人（11.5%）の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 54,858,304 円、医業外収益が 34,417,012 円、このほか特別利益が 121,372 円で、収益総額は 89,396,688 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 87,055,127 円、医業外費用が 2,564,404 円、このほか特別損失が 50,303 円で、支出総額は 89,669,834 円となりました。

この結果、医業収支では 32,196,823 円の損失、経常収支では 344,215 円の損失となり、純損益では 273,146 円の純損失となりました。